

設置工事説明書

ガスふろ給湯器（屋外設置形）

＜自動タイプ＞

KZ-S243SA

KZ-S203SA

KZ-S163SA

■工事される方へのお願い

- この機器を正しく安全に使用していただくために、この「設置工事説明書」をよくお読みになって指定された正しい工事を行ってください。本書の記載内容を外れた設置が原因で生じた故障などは、保証期間内であっても有料修理になります。
 - 「ガス機器の設置基準及び実務指針（日本ガス機器検査協会発行）」に沿って工事してください。
 - 工事終了後、取扱説明書（保証書付）の保証書に必要な事項を記入し、必ずお客さまに渡してください。
 - 当社の定める施工要領を逸脱しない据付工事に不具合（瑕疵）が生じ、施工者が無償修理や損害賠償を行った場合、BLマーク証紙の貼付（または刻印など）がされている部品については、ベターリビングのBL保険制度に基づき保険金が支給されます。
 - BL保険制度や当住宅部品の施工要領の詳細については、ベターリビングのホームページ（<http://www.cbl.or.jp/>）をご覧ください。
- なお、BL保険制度に関する質問は、ベターリビング（TEL03-5211-0559）でもお受け致します。

工事後の点検

工事が終わったら、チェックリストに基づいて必ず再確認を行ってください。

●チェックリスト

点 検 項 目		点 検 内 容	参照項	チェック
機器およびその周辺	ガス種	銘板の内容に適合していますか	安全上の注意	
	電源（電圧・周波数・消費電力）	銘板の内容に適合していますか	安全上の注意	
	保守・管理上の空間	点検・修理に必要な空間はありますか	設置場所の確認＋設置基準	
	不燃材料以外の材料との離隔距離	基準通り設置されていますか	設置基準	
	障害物、窓などの離隔距離	基準通り設置されていますか	設置基準	
	給排気	十分給排気できる場所に設置されていますか	設置基準＋機器の設置	
	安定設置	強固に設置され、がたつきはないですか	機器の設置	
	循環パイプ	接続は正しく施工され、漏れはありませんか	機器の設置	
	ドレン配管工事	指定された工事がされていますか	ドレン配管工事	
	給水・給湯配管工事	給水圧力は十分ですか	給水・給湯配管工事	
給水・給湯配管工事		接続は正しく施工され、漏れはありませんか	給水・給湯配管工事	
		保温を完全に行いましたか	給水・給湯配管工事	
		フィルターにゴミなどがついていませんか	試運転	
ガス配管工事		接続は正しく施工され、漏れはありませんか	ガス配管工事	
電気配線工事		指定された工事がされていますか	電気配線工事	
		アース線は確実に接続されていますか	電気配線工事	
試運転		試運転は正常でしたか	試運転	
お客さまへの説明		取扱説明はしましたか	試運転	
凍結予防処置		凍結予防の処置をしましたか	試運転	



1.安全上の注意

工事を誤った場合に生じる危害・損害の程度を、次のように区分しています。
いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。



危険

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



一般的な禁止



電源プラグを
抜く



必ずアースを
接続する

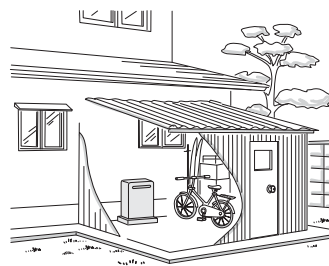
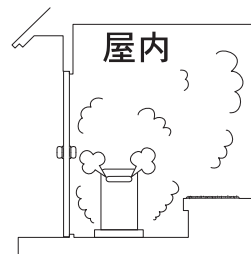


必ず行う



危険

- この機器は屋外設置形です。
屋内（浴室を含む）への設置は絶対しない。また、波板囲いなどによって簡易な囲いもしない。
一酸化炭素中毒の原因になります。



警告

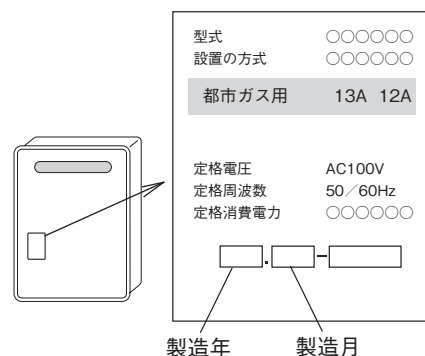
- 機器を正しく安全にご使用いただくため、この設置工事説明書をよく読み、次の法、基準、指針、条例などに従って設置する。
「建築基準法」「水道法」「下水道法」「電気設備に関する技術基準」「ガス事業法」「ガス機器の設置基準及び実務指針（日本ガス機器検査協会発行）」「液化石油ガス法」「当該地区の市・町・村火災予防条例」
- 機器の設置・移動および付帯工事には専門の資格・技術が必要です。工事は必ずお買い上げの販売店または専門業者に依頼し、有資格者による正しい工事が行われるようにする。
- 設置工事が終わったら、この設置工事説明書に基づいて設置されていることを確認する。



注意

- 銘板（ラベル）に表示してあるガスの種類（ガスグループ）で使用する。
表示以外のガスを使用すると、爆発・火災の原因になります。
- 銘板に記載の電源（電圧・周波数・消費電力）に適しているか確認する。
表示以外の電源で使用する、火災・感電の原因になります。
- 給湯・シャワー、お風呂沸かし以外には使用しない。
機器の故障の原因となります。
- この機器は家庭用機器です。
業務用など長時間使用すると、機器の寿命が極端に短くなります。
- 温泉水、井戸水、地下水は使わない。
水質によっては、機器内の配管に異物が付着したり、腐食して水漏れすることがあります。
この場合は保証期間内でも有料修理になります。
- 機器への給水は水道水を常温で利用する。
排熱利用などで温められた水を給水すると、お湯の温度制御ができなくなったり、
燃焼しない場合があります。
やけどの危険性が高く、また機器の故障の原因になります。
- 太陽熱温水器とは直接接続しない。
太陽熱温水器の水温が高くなったときに、お湯の温度制御ができなくなり、高温のお湯がそのまま出ます。
やけどの危険性が高く、また機器の故障の原因になります。
- 給水配管が未接続、または断水状態でのお風呂沸かしはできません。
- 車両・船舶への設置はしない。

（12A,13A の場合）



2. 設置場所の確認

⚠ 注意

- ・ 設置場所を決めるときは、お客さまとよく相談する。
- ・ 設置場所によっては、近隣の家と騒音・排気ガスの熱風によるトラブルが生じることがあるので、十分配慮して設置する。
- ・ 公共の通路などに近接して設置する場合は、やけどや落下物・投棄物などによる障害およびいたずら操作を防止するよう配慮して設置する。
- ・ 建物の設計段階から、設置方法や配管・配線工事方法などに関し、十分打ち合わせをしておく。
- ・ 機器を設置する場合、1階設置では有効打ち込み長さ（木下地）12mm以上、2階以上では有効打ち込み長さ（木下地）15mm以上に木ネジ固定が必要です。
※付属の木ネジで上記有効打ち込み長さが確保できない場合、JIS B 1112の「木ネジ 4.8×有効打ち込み長さ」の木ネジを現場手配してください。
- ・ 周囲に障害物がなく、空気の流れが停滞することのない場所に設置する。
- ・ 引火性危険物（ガソリン・ベンジン・接着剤など）取り扱い場所または腐食性ガス（アンモニア・塩素・イオウ・エチレン化合物・酸類）の発生する場所には設置しない。
- ・ 故障や火災の原因になります。
- ・ 階段・避難口近くには設置しない。
- ・ ガスメーター・ガス配管・ガス容器などの点検に支障のない場所に設置する。
- ・ 落とし込んで（ピットなど）設置することは避ける。
- ・ 万一、落とし込んで設置する場合は、ピット内に必ず排水口を設ける。
- ・ 機器取り付け場所の排水状況を確認し、機器が冠水しないように設置する。
- ・ 機器の排気が直接建物の外壁や窓、ガラス（特に網入り板ガラス）、網戸、アルミサッシ、動植物などにあたらないように設置するか排気カバー（別売品）を使用し排気方向を変更する。

- ・ 外壁やアルミサッシの変色、ガラスが割れる、動植物への悪影響などの原因になります。
- ・ 換気扇・レンジフード・エアコンなどからの風が、機器の給排気に影響を与える場所に設置しない。
- ・ 積雪や落雪、落ち葉などが給排気に影響を与える場所に機器を設置しない。（上方排気カバー取り付けの場合は特に注意する）不完全燃焼の原因となります。
- ・ 高所に機器を設置する際は、機器正面でメンテなどの作業ができ、手すりなどの落下防止の措置のある場所（ベランダなど）に設置する。
作業ができない場合は、アフターサービスをお断りすることがあります。
- ・ 砂や綿など、ほこりのたまりやすい場所には設置しない。
ほこりが給気口をふさいだり、ファンモーターの性能を低下させ、不完全燃焼の原因になります。
- ・ 塩害が考えられる地域（海に近く潮風が当たりやすい地域）では、機器本体の設置は建物の風下にする。
やむを得ず海岸面に設置する場合でも、防風板を設けるなどで、直接潮風が当たらないようにする。また、水平で水はけの良いところに設置する。
水はけが悪く、雨の後など機器の設置面に水が溜まると、機器底面が腐食し、思わぬ事故が発生します。
据置設置では、泥などが直接つかないように土台を少し高くする。
- ・ 棚の下など、落下物の危険のある場所や、洗濯の物干場など、燃えやすい物のある場所には設置しない。
- ・ 排気口から、水蒸気（煙状のもの）や水滴が出ることがあるため、水蒸気の見えにくい位置や水滴落下による床ぬれ・飛散による支障のない場所を選んで設置する。

3. 機器の設置基準

⚠ 注意

防火上の措置

■「不燃材料以外の材料による仕上げをした建築物などの部分」とは、下記の離隔距離をとる

- ・ 離隔距離の寸法などの基準は、各地方自治体により異なる場合があります。

※機器を設置する場合の周囲との離隔距離は、以下の「①機器本体周囲の離隔距離」「②排気吹き出し口周囲の離隔距離」の両方を満足するように設置する。

① 機器本体周囲の離隔距離

右図の離隔距離をとる。ただし（ ）内は、「不燃材料で有効に仕上げをした建築物などの部分」との離隔距離です。

注1. 機器の左側方は配管スペースとして350mm以上設ける。

② 排気吹き出し口周囲の離隔距離

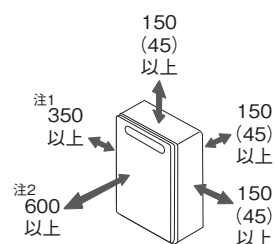
下図の離隔距離をとる。ただし（ ）内は、防熱板および「不燃材料で有効に仕上げをした建築物などの部分」との離隔距離です。

注2. 排気ガスが壁面ではね返り、機器が燃焼不良が発生する場合があります。

また、機器の点検・修理のためにも、機器前方は600mm以上の空間を設ける。

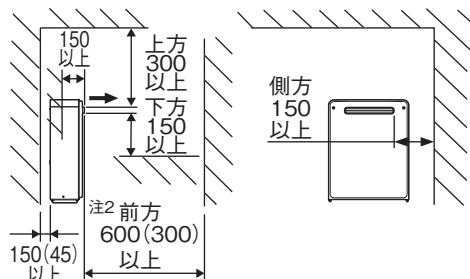
←は排気吹き出し方向を示します。

（機器本体周囲の離隔距離）
（単位：mm）

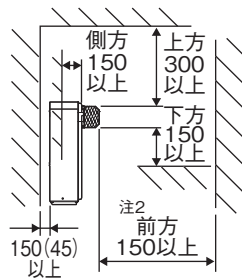


（単位：mm）

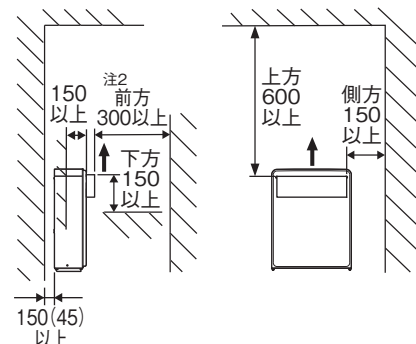
・ 標準設置



・ 側方排気カバーを取り付けの場合



・ 上方排気カバーを取り付けの場合



■ 建物開口部とは、下記の離隔距離をとる

③ 排気吹き出し口と建物開口部との離隔距離

機器の排気口から、下記寸法を壁面に投影した範囲内に燃焼排ガスが室内に流入するおそれのある開口部がないこと。
ただし、排気口から 600mm 以上離れた部分は除きます。

※ 換気扇の排出部、熱交換形換気扇の給気口は、燃焼排ガスが流入するおそれのある開口部にあたります。

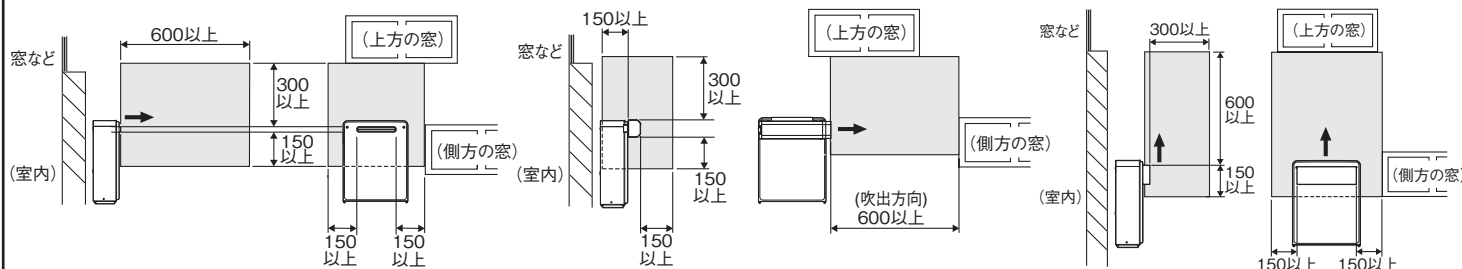
(単位：mm)

←は排気吹き出し方向を示します。

・ 標準設置

・ 側方排気カバーを取り付けの場合

・ 上方排気カバーを取り付けの場合



4. 付属部品の確認

取り付けの前に確認する。(取扱説明書(保証書付)・本紙を除く)

部 品 名	形 状	個 数	部 品 名	形 状	個 数
リモコンコード S 3m		1	φ 53 締付バンド		4
フィルターセット	ケースセット	各 1	連結ゴム		2
	フィルター		木ネジ (4.8 × 38)		2
湯止めキャップ セット	ケース セット	各 1	本体取付板		1
	湯止め キャップ		フィッシャープラグ SX 6 × 30		2

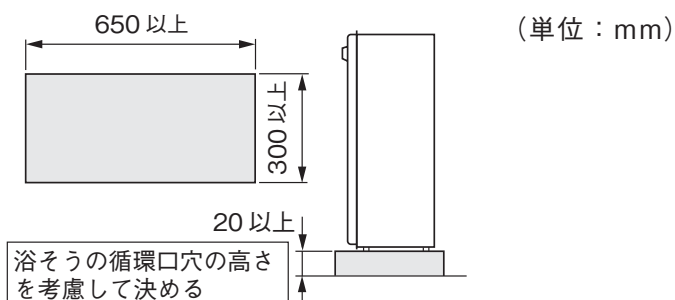
5. 機器の設置



- ・ 機器を設置する地面・床面や壁は十分な補強工事が必要です。十分な補強工事がされないと、機器の転倒や落下および機器運転時の振動による影響が発生するおそれがあります。
- ・ 機器を設置する場合、落下させたり、衝撃を加えたりしない。機器内部の部品が破損することがあり危険です。
- ・ 必ず水平な床に設置し、地震その他の振動または衝撃により転倒したり、亀裂または破損がないよう設置する。
- ・ 手袋などで手を保護し、ケガのないように注意する。
- ・ 穴あけの際は、壁内の電気配線、ガス、水道管などに注意する。

■ 機器の据え付け

- ・ 機器据え付け台を設ける場合は、右図のようにする。
据え付け台の高さについては、浴そうの循環口穴の高さを考慮して決める。
(下部循環口パイプが下り勾配になるようにする。
※詳細は 6 ページ参照)



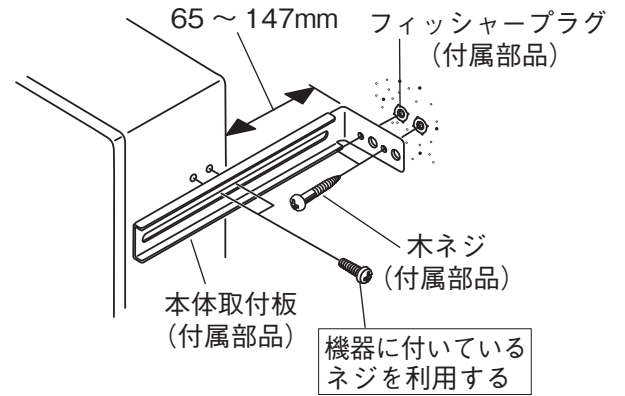
■ 壁面への固定

※イラスト中の付属部品以外の部品については、別売品または現場手配品です。

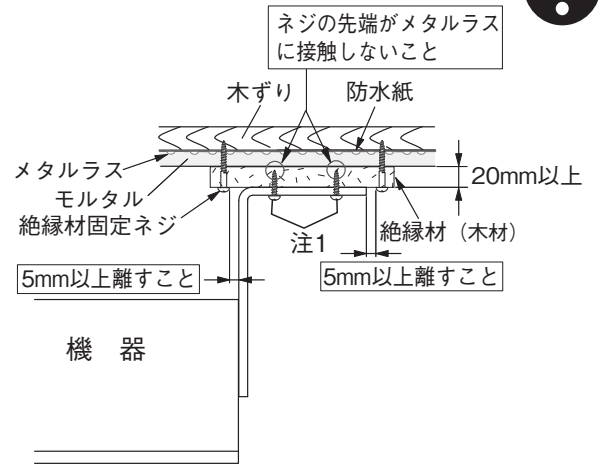
1. 本体取付板を機器の右側に仮止めし、壁面のネジ穴位置（2カ所）を決める。
※本体取付板の小さい方の穴を使用する。
2. 本体取付板を取り外し、壁面のネジ穴位置にドリルで穴（穴径φ6、深さ40mm）をあけて、フィッシャープラグを打ち込む。
3. 再び本体取付板を機器に取り付け、木ネジで壁面に固定する。
4. 機器を取り付けたネジから建物内に水が入らないように、防水処理をする。

※「電気設備に関する技術基準」により、メタルラス張りやワイヤラス張りなどの造営物に電気機器を取り付ける場合は、機器と造営物とは電氣的に接触しないように施設する必要があるため、右図のような施工をするか、絶縁部品（別売品）を使用する。

注1.木ネジはJIS B 1112の「4.8×有効打ち込み長さ」を現場手配する。



絶縁処置(例)

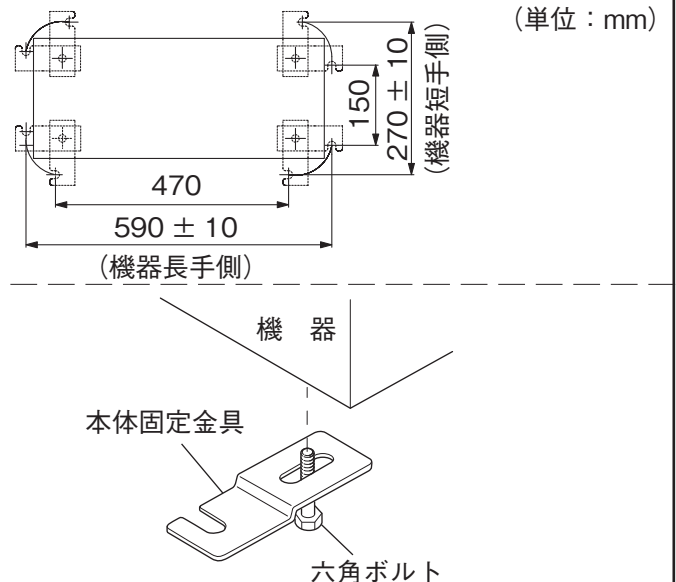


■ 床面への固定（別売品の本体固定金具を使用する場合）

1. 基礎ボルト用の穴をドリルであける。
（基礎ボルトは、M10 × 125mm 程度を使用する）
2. 本体固定金具を取り付ける。
脚の下に取り付けてある六角ボルトを外し、図のように本体固定金具の長穴部に通して再び脚に取り付ける。
3. 本体固定金具を基礎ボルトで固定する。

※壁に近接して設置する場合は、本体固定金具を機器長手方向にセットする。

※機器の脚は絶対にセメントなどで埋め込まない。
機器の交換ができなくなります。



■浴そうの穴あけと循環パイプの取り付け

※ 既設の循環パイプを使用する場合は、機器との接続前に必ず、循環パイプの洗浄（水で洗い流すなど）を実施する。
（湯アカなどが付着している場合があり、クレームの原因になります）

1. 下部循環口の高さは、浴そう底部から 100mm 程度にする。
また下部と上部の循環口の間隔は、110 ～ 120mm 位にする。

2. 上部循環パイプは「水平」、下部循環パイプは「水平」もしくは若干の「下り勾配」になるように取り付ける。
※ 下部循環パイプを必要以上に下り勾配（下記 A 参照）にすると、循環不良の原因になるので避ける。
※ 下部循環パイプが逆勾配になる（下記 B 参照）と、機器内の水が排水されないため、機器内の凍結・破損の原因になるので避ける。

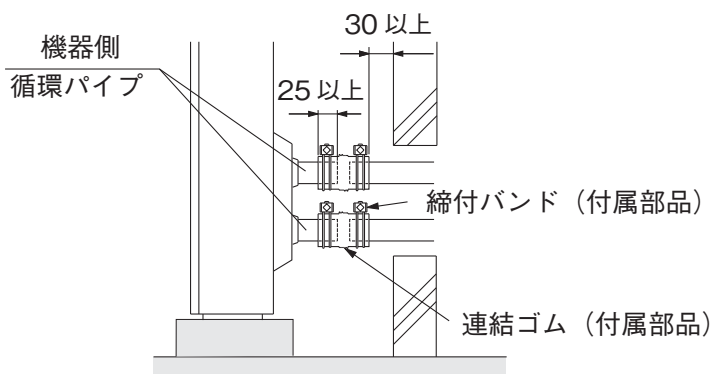
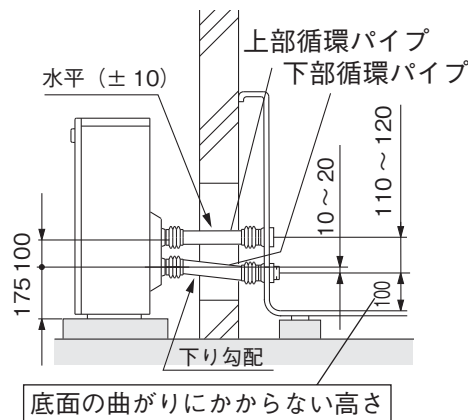
3. 機器側循環パイプと浴そう側循環パイプを、連結ゴム・締付バンドを使用して取り付ける。
各接続部からの水漏れがないか確認する。

※ 機器側循環パイプの材質は樹脂のため、衝撃を与えると割れる場合があるので注意する。

標準施工図

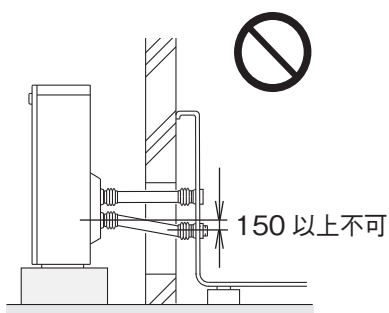
（単位：mm）

※ イラスト中の付属部品以外の部品については別売品または現場手配品です。

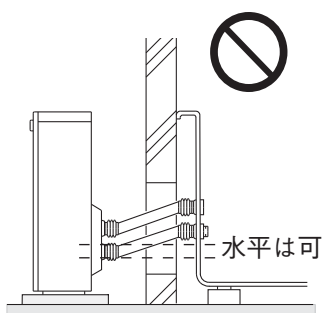


（単位：mm）

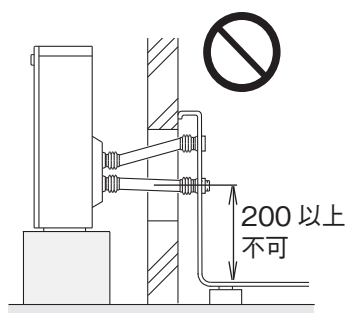
A. 下部循環パイプが下記以上の下り勾配



B. 下部循環パイプが逆勾配

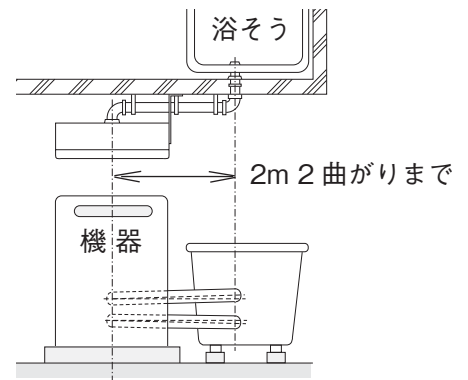


C. 浴そうと機器の高さのずれ



■循環パイプを延長する場合

1. 取り替え現場などで循環パイプを延長する必要がある場合は、上下循環パイプの勾配は前ページの「標準施工図」の範囲内とし、 $\phi 45$ の連結パイプ使用時は 2m2 曲がり以内を必ず守る。
上記延長範囲をこえると、機器作動不良・故障の原因になります。
2. 循環パイプが変形しないように固定する。

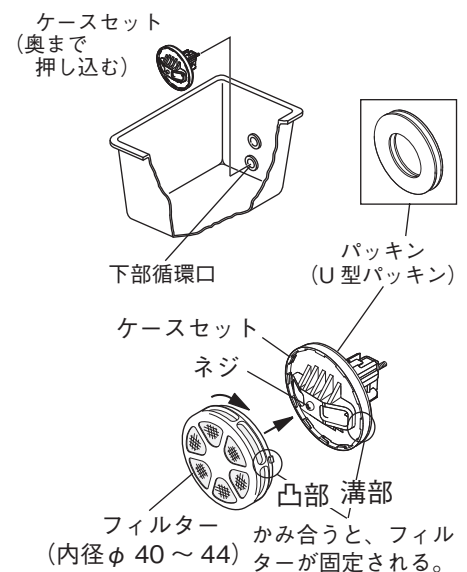


■フィルターセットの取り付け

※ 付属のフィルターセットは必ず取り付ける。

フィルターを取り付けていない場合、循環ポンプ内にゴミがつまり、機器の故障の原因になります。

1. 付属のフィルターセットから組み付けのフィルターを左に回して取り外す。
 2. フィルターを取り外したケースセットを浴そうの下部循環口に奥いっぱいまで押し込む。
- ※ パッキン (U 型パッキン) が付いていることを確認する。
(湯止めキャップセットとフィルターセットとは組み付けのパッキン形状が違うので注意する)
3. ケースセットに組み付けのネジを締め込んで、ケースセットが簡単に動かなくなるまで固定する。
(締めすぎると下部循環口側が破損するおそれがあるので注意する)
- ※ 下部循環口とケースセットの間にすきまができていないかを確認する。
(すきまがあるとフィルターを通らずに、すきまからゴミが入り故障の原因になります)
4. フィルターを右に回してケースセットに取り付ける。
(ケースセットの円周の溝部にフィルターの凸部がかみ合うと、フィルターが固定されます)



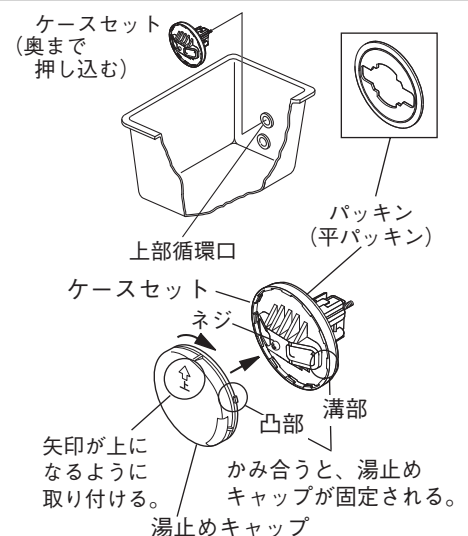
■湯止めキャップセットの取り付け

※ 付属の湯止めキャップセットは必ず取り付ける。

付属部品以外のキャップを取り付けていたり、また湯止めキャップを取り付けていない場合、攪拌性能が低下し作動不良や浴そう内温度ムラの原因になります。

※ 湯止めキャップに付属の取扱注意書も参照する。

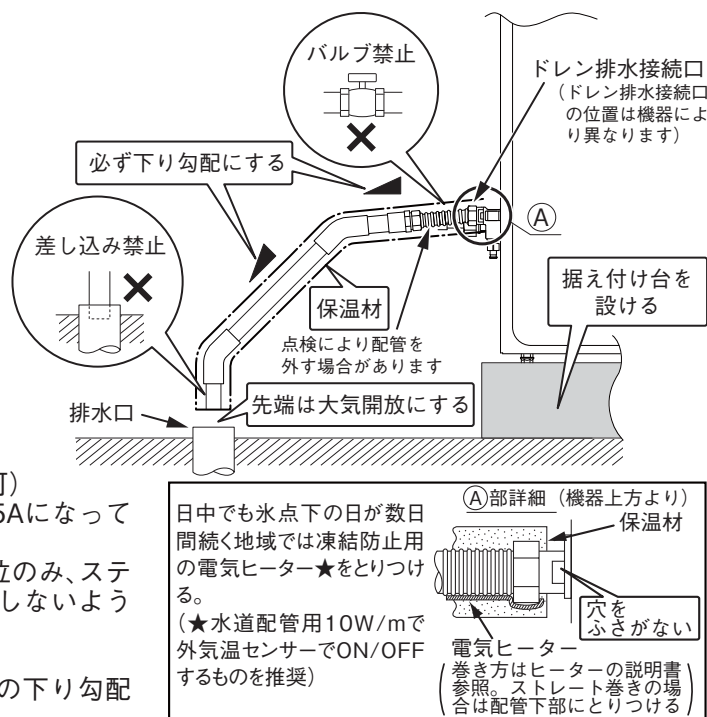
1. 付属の湯止めキャップセットから組み付けの湯止めキャップを左に回して取り外す。
 2. 湯止めキャップを取り外したケースセットを浴そうの上部循環口に奥いっぱいまで押し込む。
- ※ パッキン (平型のパッキン) が付いていることを確認する。
3. ケースセットに組み付けのネジを締め込んで、ケースセットが簡単に動かなくなるまで固定する。
(締めすぎると上部循環口側が破損するおそれがあるので注意する)
4. 湯止めキャップを矢印が上になるように、右に回してケースセットに取り付ける。
(ケースセットの円周の溝部に、湯止めキャップの凸部がかみ合うと、湯止めキャップが固定されます)



6. ドレン配管工事

当該地区の指定工事店に依頼し「下水道法」の規定に従う。

- 必ずドレン配管を行う。この機器は潜熱回収型高効率製品のため、燃焼中に「ドレン排水接続口」からドレン水が排出されます。(最大約100cc/min)
- ドレン配管を雨水の系統に流すときは間接排水にする。(トラップは設けない)
- ドレン配管を汚水・雑排水の系統に流すときは間接排水とし、臭気対策としてトラップを必ず設ける。(この場合、長期不在のとき、臭いが出ることがあるので注意を促す)
- ドレン排水接続口は樹脂製なので、接続時には無理な力が掛からないようにする。
- ドレン排水接続口(樹脂)とドレン排水配管の接続箇所はシールテープ・パッキンなどを使用する。その他のシール剤には樹脂を侵すものがあります。
- ドレン排水配管の先端は大気開放とし、水につからないようにする。また、ゴミ詰まりのないように注意する。
- ドレン配管は雨水立て管には直接接続しない。(間接接続は可)
- ドレン配管の径は途中で細くしない。ドレン排水接続口は15Aになっています。
- ドレン配管は塩ビ管を使用する。(機器側面の配管つなぎ部位のみ、ステンレスフレキ管などを使用しても可。ただし、ドレンが滞留しないように下り勾配とする)
- ドレン配管はできるだけ短くする。
- 配管途中で横引きする場合は、排水口に向かって1/50以上の下り勾配にする。(エルボは45° エルボを使用する)
- 凍結予防のため、地域に応じた保温処置(保温材・電気ヒーターなど)をする。
- ドレン配管にはバルブなどを取り付けない。
- お客さま要望により逆流防止装置の動作を確認する場合があるため、ドレン配管は機器との取り外し・取り付けが容易な接続とする。



7. 給水・給湯配管工事

当該地区の指定工事店に依頼し、水道事業条例の規定に従う。

■配管上のご注意

- 配管材料は必ず関係水道局の承認または検査に合格したものを使用する。
- 機器に接続する前に必ず水を流して配管内の切粉・砂・ゴミなどを排出する。
- 接続口にはユニオン継手などを使用し、締め付け時に無理な力をかけない。
- 配管口径は、機器の接続口径以下にしない。
- 銅管を使用する場合、必ずろう付けにて接続する。
- 継手類はできるだけ少なくし、複雑な配管はしない。
- 配管途中に空気溜りのできるような配管はしない

●給水配管

- 給水接続口付近に逆止弁と給水元栓または、逆止弁付給水元栓を取り付ける(この間は塩ビ管を使用しない)。
- 給湯量を確保など、快適に使用するためには、給水圧力が約0.2~0.5MPa(約2.0~5.0 kgf/cm²)は必要です。給水圧力が低い場合は、機器の能力が十分発揮されず、お客さまとのトラブルの原因となるので、加圧ポンプを設置するなどの対策を行う。
- 給水圧力が高い場合は、減圧弁を取り付けるなどのウォーターハンマー防止処置を行う。

●給湯配管

- 鉛管や水道用塩ビ管は絶対に使用しない。また、樹脂管を使用する場合は、配管材料メーカーが給湯配管への使用を認めているものを使用する。
- 2か所以上で同時にお湯を使用するときは、配管の方法、特に機器から遠い場所、高い位置の給湯栓ではお湯の出ない場合もあるので、十分検討する。
- 銅管を使用する場合、銅管と継手類の接合は、漏水防止のため必ずろう付けで行う。
- 必要以上の太い配管はしない。
- できるだけ短距離になるよう配管する。配管が長いと、それだけお湯の始動が遅くなります。
- 混合水栓およびシャワーヘッドは極力、通水抵抗の少ないものを使用する。

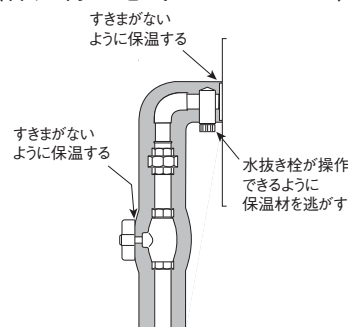
- 階下への給湯は、1フロア下までにする。1フロアをこえて給湯すると、機器内が負圧になりお湯が沸騰する場合があります。
- 階上に配管する場合は、余分に給水圧力が必要になります。(1mにつき0.01MPa(約0.1 kgf/cm²) ずつ余分に必要になります)

●排水処理

- 過圧防止安全装置から機器内の膨張水を排出するので必要に応じ排水処理する。
- 排水ホースの先端は大気開放とし、水につからないようにする。また、ゴミ詰まりのないように注意する。

●凍結予防

- 地域に応じた凍結予防処置(保温材・電気ヒーターなど)をする。
- 給水、給湯配管に水漏れがないことを確認した後、給水元栓および給水・給湯接続口はすきまがないように根元まで保温する。(右図参照)
- 配管内の水抜きが容易にできるよう処置する。(水抜き栓を保温材で包み込まない)(右図参照)



8. ガス配管工事

ガスの供給業者の指示に従う。

- ガス栓
機器を使用する場所にガス栓がない場合、またはあっても位置や寸法などが適切でない場合には新設・移設または交換などが必要なので、ガス供給業者と相談する。
- ガスメーターについて
他の燃焼機器と同時に使用しても、機器に十分ガスが供給できるガスメーターが必要なので、ガス供給業者と相談する。
- LPガスの容器について
LPガスの容器は50kg 2本以上を併用する。
また、機器から2m以上離して設置する。
- ガス接続について
 - ・ ガス接続口径はR3/4、R1/2（TU接続可）です。
 - ・ 配管口径は機器の接続口径以下にしない。
 - ・ 機器の接続口に配管するときは、受け工具を必ずスパナがけ部にかける。

- ・ 配管接続後、接続部のガス漏れを調べる。
- 機器へのガス接続に必要な資格について
 - ・ 都市ガス用機器の場合、内管工事士、簡易内管施工士、ガス機器設置スペシャリスト、ガス可とう管接続工事監督者のいずれかの必要な資格を有する者が施工すること。
 - ・ LPガス用機器の場合、液化石油ガス設備士の資格を有する者が施工すること。（ガス機器設置スペシャリストは「燃焼器用ホース」の交換のみ施工可能）
なお、液化石油ガス設備工事を行う事業者は、事業所ごとに所在地を管轄する都道府県知事に「特定液化石油ガス設備工事事業開始届書」を提出する必要があります。

9. 電気配線工事

電力会社の指定工事店に相談する。

⚠ 注意

- ・ すべての電気配線工事が完了するまで、機器の電源プラグをコンセントに差し込まない。
または屋内分電盤のブレーカーをONにしない。感電や機器の故障の原因となります。
- ・ 機器の電源は、AC100V（50/60Hz共用）です。消費電力は機種およびガス種によって異なるので、銘板で確認のうえ必ずこれに適したコンセントか確認する。

配線上のご注意

- ・ 落雷の多い地域の場合、コンセントは機器の電源プラグを屋内で、お客さまが安全に抜き差しできる事も考慮する。
- ・ 電気配線は、電力会社の指定工事店に依頼する。
- ・ 電源コードはその他の配管、ガスメーター、ガス管などに接触しないように、また機器排気口の放熱などの影響を受けないように配線する。
- ・ 電源コードが余った場合は、機器内に入れず、据置台や配管カバーなどの機器外にまとめる。
機器内に入れると故障の原因となります。
- ・ 「電気設備に関する技術基準」により、漏電したとき自動的に電路を遮断する装置（漏電遮断器）が電源側に必要です。
- ・ 電源にタンブラスイッチは使用できません。
タンブラスイッチで電源を切にすると、機器内の凍結予防ヒーターが作動せず、凍結破損の原因になります。

屋外コンセント

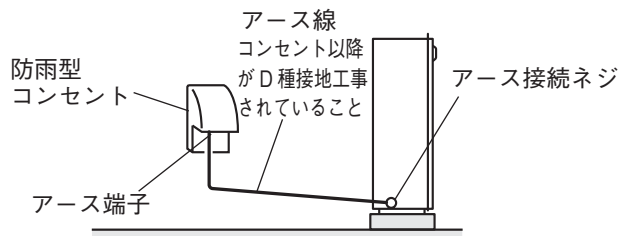
- ・ 機器から約1.5m以内にコンセントが必要です。
- ・ コンセントは、地上より300mm以上で、機器の後ろにならず、排気口の放熱を受けない位置か確認する。
- ・ コンセントはJIS防雨型屋外コンセント（アース端子付）か確認する。
やむを得ず他のコンセントを使用する場合は、雨線内に納められているか適切な防水箱内に納められているか確認し使用する。
または屋内コンセントを利用する。

接地（アース）工事

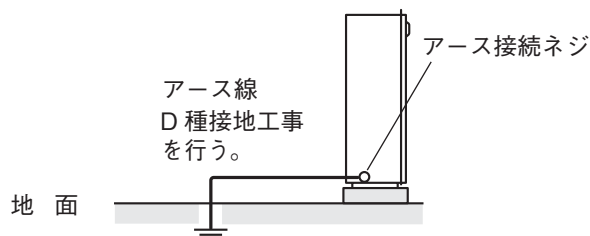


- ・ D種接地工事は法令で規定されています。基準に適合しない場合は、機器の使用停止を命じられる場合があります。
また、万一の感電事故防止のためにもD種接地工事（接地抵抗500Ω以下）が必要です。
- ・ アース線は、1.6mm（2mm²）以上の銅線を使用する。
- ・ アース線は、ガス管や水道管、電話や避雷針のアース回路には接続しない。また他の製品のアース回路にも接続しない。
- ・ アース接続ネジは機器の底面にあり、アース表示しています。

< JIS 防雨型アース端子付 >



< JIS 防雨型アース端子付でない場合 >

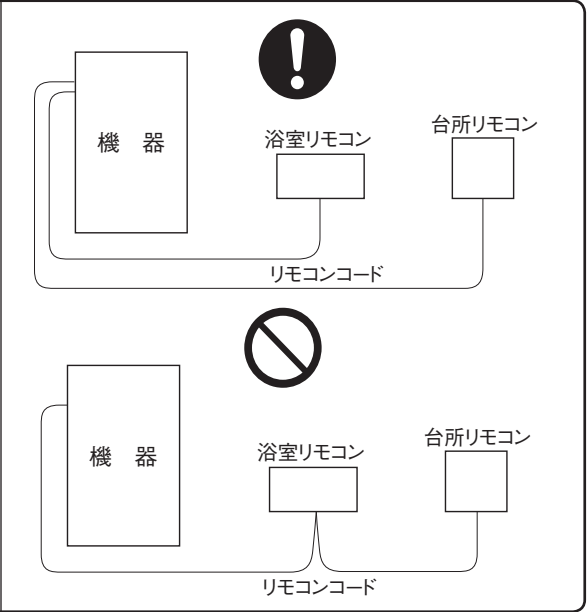


■リモコンの取り付け

- ・ リモコンに付属の工事説明書により取り付ける。
 - ・ 増設リモコンは台所リモコン、もしくは浴室リモコンと組み合わせて使用してください。
 - ・ 台所リモコンと台所リモコン、浴室リモコンと浴室リモコンといった組み合わせでの取り付けはできません。
- ※ 適合リモコンについてはカタログなどを参照。

■リモコンコードと機器との接続

- ・ リモコンコードが導通しているか確認する。
 - ・ リモコンコードが余った場合は機器外でまとめ、機器内には絶対入れない。
 - ・ リモコンコードは長さ25m以内で使用する。25mをこえると、機器の作動不良の原因になります。
 - ・ リモコンコードは1つの端子台に2本まで共締め可能です。リモコンコード3本を接続する場合は、機器内で1本にまとめて圧着した後、端子台に接続する。
 - ・ リモコンコードのY型端子は樹脂スリーブ付を使用する。(スリーブがないものは、銅線が腐食し不良の原因になります)
 - ・ リモコンコードを途中で中継して、リモコンからリモコンへ配線しない。1つのリモコン(リモコン以外の別売品も含む)に対し、1本のコードを使用する。
- 機器の故障・作動不良の原因になるので、絶対に避ける。
- ・ 端子台へのネジ止めは必ず手締めで行い、電気ドライバー、インパクトドライバーなどは絶対に使用しない。
- 端子台が破損するおそれがあります。
- ・ 他の給湯機器のリモコンコードは同一電線管内に入れない。
- 機器の故障、作動不良の原因になるので避ける。



項目	作業内容	説明図
リモコンコード接続	1. 壁面よりリモコンコードがリモコン端子台へ接続できる十分な長さまで引き出されていることを確認する。 2. 電源コードがコンセントに差し込まれていないことを確認する。 3. リモコン端子台カバーを取り外す。 4. リモコンコード先端のY型端子を、リモコン端子台に接続する。 ※極性はありません。 5. リモコンコードをクランプで固定する。 6. リモコン端子台カバーを、元通り取り付ける。	The diagram shows the physical connection process. It starts with a 'リモコン端子台カバー' (remote control terminal block cover) being removed from a 'リモコン端子台' (remote control terminal block). The 'リモコンコード' (remote control code) is then connected to the terminal block using a 'クランプ' (clamp). The terminal block has terminals for '台所' (kitchen) and '浴室' (bathroom). The final step shows the 'リモコン端子台カバー' being reattached.

10. 試運転

下記に従い試運転を行い、正常に作動することを確認のうえ、お客さまに使用方法を説明して引き渡す。

準備

- (1) 給水元栓を開き（または開いていることを確認し）、すべての給湯栓から水が出ることを確認し閉める。
- (2) ガス栓を開き、電源プラグをコンセントに差し込む、または屋内分電盤のブレーカーを ON にする。
- (3) リモコンの運転スイッチを「入」にする。（運転ランプが点灯します）

給湯側

- (1) 給湯栓を開き、給湯燃焼表示が点灯し、お湯が出るのを確認する。
（最初は、ガス配管の空気が抜けるまで給湯栓の開・閉操作を繰り返す）
※故障表示「111」がでた場合、すべての給湯栓を閉めて、もう一度給湯栓を開く。
- (2) 「給湯温度設定」スイッチを操作して、湯温が変わることを確認する。
確認後、設定を 40℃ に戻しておく。
- (3) ドレン水がドレン排出配管から排出されることを確認する。
（通常の給湯使用の場合、約 15 分で排出し始めますが、季節・条件により排水まで長時間かかる場合があります）

ふろ側

※ガス未開栓の場合も試運転はできますが、ガス漏れなどのチェックができないので、開栓後に改めてチェックする。
※給水配管が未接続、または断水状態での、お風呂沸かしはできません。
※ふろ自動試運転は、必ず浴そうが空の状態から行う。残水があるとお湯はりをしなかったり、浴そうからあふれることがあります。

●試運転方法

・浴室リモコンで下記のように試運転を行う。

スイッチはリモコンにより異なります。現場に付いているリモコンを確認し該当するスイッチを押す。

- ① 必要に応じて、取扱説明書を参照し、ふろ温度、ふろ水量（湯量）を設定する。
- ② 運転スイッチを「切」にし、「たし湯」「たし水」スイッチを「ピッ」の受付音がするまで同時に押し続ける。
- ③ 「ピッ」の受付音後、自動的に運転スイッチが入り、ふろ自動試運転が始まります。
（ふろ自動試運転を中止する場合は「運転」、または「ふろ自動」スイッチを押す。ふろ自動試運転を中止した場合は、浴そうを空の状態にして、上記①から試運転をやり直す。）
- ④ 設定温度・水量（湯量）になるとリモコンよりメロディーと音声ガイドが流れ、試運転は完了です。

<ガス未開栓の場合>

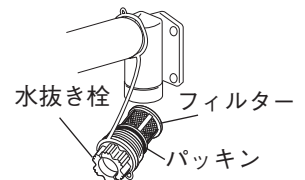
故障表示「111」が点滅表示しますが、水のまま試運転が進みます。

設定水量（湯量）になると「LLL」を点滅表示し試運転を終了するので、運転スイッチを「切」にする。

・正常運転しない場合は、取扱説明書の「故障・異常かな？と思ったら」を参照する。

※試運転が終わったら、給水接続口のフィルターにたまったゴミなどを掃除する。

水抜き栓からフィルターが外れた場合は、水抜き栓とフィルター間のパッキンをなくさないように注意する。



⚠ 注意

●試運転終了後の処置

・ガス栓、給水元栓の閉止。

すぐ使用する場合を除き、凍結して機器が破損するのを予防するため、機器に貼り付けてある施工チラシまたは取扱説明書に従って必ず水抜きを行い、ガス栓、給水元栓を閉じ、電源プラグを抜く。

または屋内分電盤のブレーカーを OFF にする。

（凍結により破損したときの修理は、保証期間内でも有料になります）

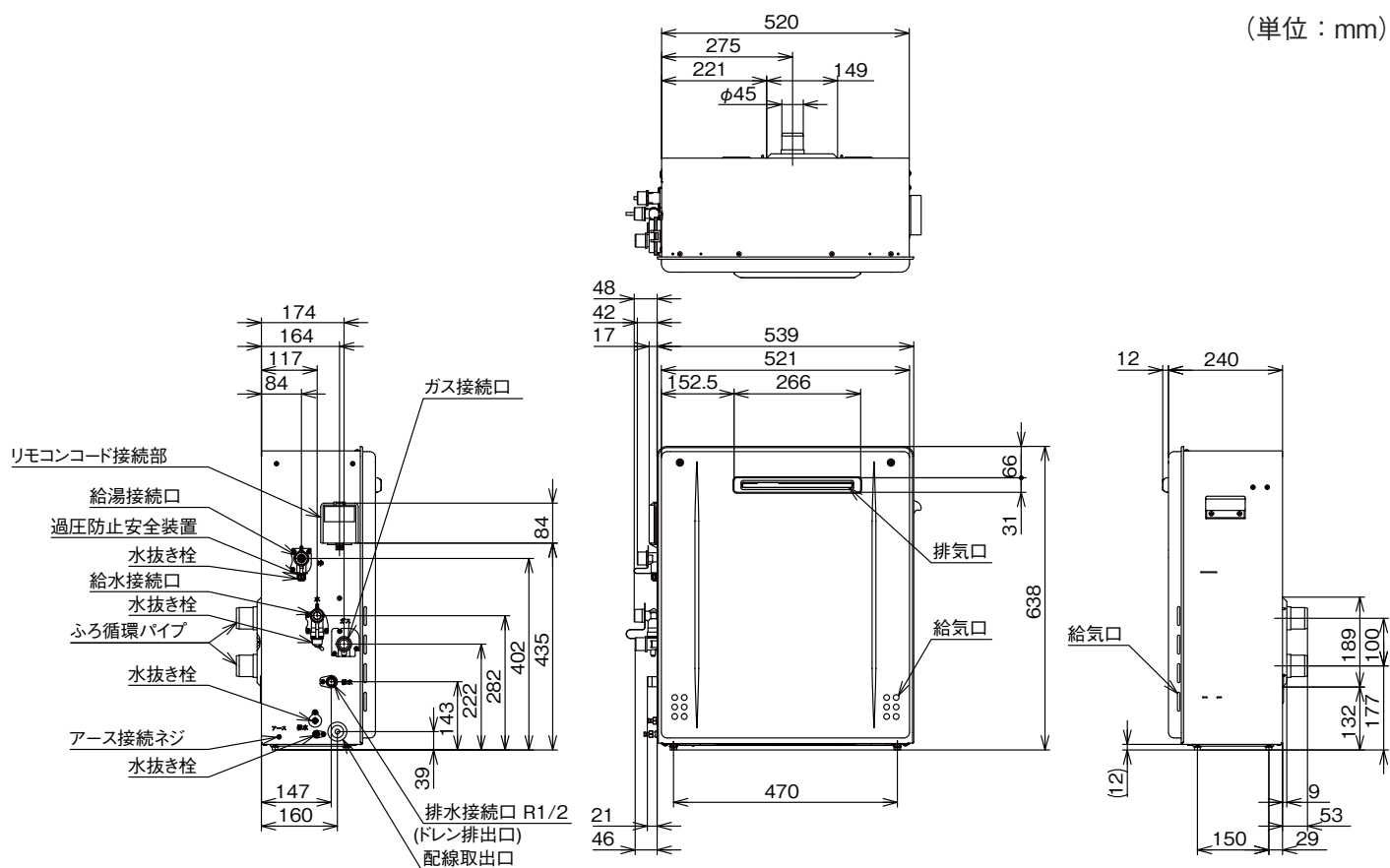
■お客さまへの取扱説明

- ・取扱説明書に従って「使用方法」を説明する。
特に取扱説明書の「必ずお守りください（安全上の注意）」をよく説明する。
- ・保証書に必要事項を記入する。
また、取扱説明書の「アフターサービスについて」を説明する。
- ・取扱説明書（保証書付）をお客さまに渡す。

■定期点検のおすすめ（有料）

- ・本機器は給水用具（逆流防止装置）を内蔵しています。機器を安全・快適にお使いいただくために、「給水用具の維持管理指針（日本水道協会発行）」に基づいて4～6年に1回程度の定期点検をおすすめします。

11. 外形寸法図



共通事項

1. ガス接続口径

● 12A・13A ガス用

- ① 24号・20号 R3/4
- ② 16号 R1/2 (TU 接続可)

● LP ガス用

- ① 24号・20号・16号 R1/2 (TU 接続可)

2. 給水・給湯接続口径

- ① 24号・20号 R3/4
- ② 16号 R1/2